

⑤	④	③	②		①
エ	一	ウ	水	タ	あ
	ぴ		そ	ク	る
	き		う	ヤ	日
	の			さ	の
	金			ん	こ
	魚			の	
				家	
				の	

「かいせつ」

(1) 前半は、どじょうがどのような生活をしているか、ということが書かれている。後半は、とつぜん、水そうに金魚が入って来るところから始まる。

(2) 本文の一、二行目に、「タクヤさんの家の水そうに、どじょうが一ぴき住んでいました」とあるので、「タクヤさんの家の水そう」が答えになる。

(3) () のあとに、「まるで空にうかぶ雲のようにゆったりとした気分になる」とあるので、その様子からあてはまるものをえらぶ。

(4) 「その正体」の「その」とは、――①線部の前の「赤い小さな物」を指している。それが何かを、――①線部よりあとの本文中から六字でさがす。

(5) 「赤い小さな物」の正体は、「一ぴきの金魚」だとわかったので、アはまちがい。イ・ウは、本文中に書かれていないのでまちがい。「金魚にいきなりあいさつをされて、びっくりした」と本文中にあるので、エが答えになる。

⑥	⑤		④	③	②	①
ウ	っ	教室に	そ	エ	五 れん	イ
	て		わ			
	来		そ			
	た		わ			
	か ど う か を た し か め る た め	さ				
		ん				
		が				
		入				

「かいせつ」

(1) この詩は、さんかん日の出来事できごとを書いている。

(2) この詩は、小さいまとまりが五つあるので、五れんからできている。

(3) —①線部の前の行に、「まちがえないように何回も練習した」とあるので、もし、教科書を読まされたら、まちがえないようにしたかったことがわかる。

(4) 「そわそわ」は、「気持ちやたいどが落ち着かない様子」を表す言葉あやう。

(5) —②線部の前からわかるように、教室の後ろのドアから、お母さんたちが入って来るのである。

(6) —③線部のあとの、「お母さんに小さく手をふった」という、「わたし」の動作どうから考える。

⑤	④	③	②	①
ウ	タ	ア	イ	エ
	ク			
	ヤ			
	さ			
	ん			

「かいせつ」

(1) (1)の前では、「水そうの中のくらしはのんびり
していて、ぼくは、とても気に入っていました」とある。
しかし、(1)のあとでは、「ときどき、ちよっぴり
さびしくなるのです」と、反対のことが書かれているの
で、(1)には、「でも」が入る。

(2) 水そうの中を泳いでいる金魚のしつぱが、どのような
様子なのかを考える。

(3) — ③線部のあとで、「ぼくには名前がないんだ……」
と、しょんぼりしながら答えていることがヒントになる。

(4) 「ぼく」は、金魚を見てほっとした顔をしている、タク
ヤさんを見ていた。すると、タクヤさんが、金魚といっ
しょにいる「ぼく」に気づき、目が合ったのである。

(5) ア・イ・エは、本文中に書かれていないことなのでま
ちがい。 — ⑤線部のあとに、「キンちゃんと話をしたり、
追いかけてっこをしたり、にぎやかな毎日です」とあるの
で、ウが答えになる。

⑥	⑤	④	③	②	①
ウ	ア	三	イ	エ	五
		時			れん
		間			
		目			

「かいせつ」

(1) この詩は、小さいまとまりが五つあるので、五れんからできている。

(2) 詩の題名^{だい}からわかるように、今日が「さんかん日」なので、「わたし」はどきどきしているのである。

(3) 落ち着かない様子を表す言葉なので、「そわそわ」が答えになる。

(4) だんだん近づいてくるのは、じゅ業^{しゅごふ}さんかんの時間なので、それと同じ時間を指^さす四字の言葉を、第一れんからさがす。

(5) —④線部のすぐ前に、「たくさんの手があがって」とあるのがヒントになる。

(6) —⑤線部のあとの第五れんに、「わたし」が先生に当たて^{あた}てほしかった理由^{りゆう}が書かれている。



⑤	④		③	②		①
ア	を、 まとめた	な	だ	②	①	ウ
		形	い	本	ま	
		を	た		い	
		し	い			
		て	に			
		い	た			
		る	よ			
		物	う			

「かいせつ」

(1) 文章の題名は、その文章に書かれていることを、短い言葉でまとめたものである。この文章では、はじめに、「みなさんは、物を数える言葉について、考えたことがありますか」とあるので、「物を数える言葉」について書いてあることがわかる。

(2) (1) は、紙やハンカチ、お皿やシャツを数えるとき、(2) は、えん筆やかさ、ネクタイを数えるときに使う言葉。

(3) ③線部のすぐあとの、「から」という理由を表す言葉がヒントになる。

(4) どのようなものをまとめて、同じ言葉で教えたか、ということ。本文のさい後に、「だいたいになような形をしている物を、同じ言葉で数えるようにしたのです」とある。

(5) えん筆やかさ、ネクタイなどの形を考えてみる。



⑤	④				③	②	①
二	さ	へたんす	な	火事	イ	さ	ウ
つ	お	の両がわに	場	のとき、へたんすを		つ	
	でか つげ るよ うに した から		所				
		金	に、かんたんに運び出せるように、	外			
		具		の			
		をつけて、		安			
				全			

「かいせつ」

（１）（①）のあとに、物を数える言葉のいろいろなれい
があげられているので、「たとえば」が入る。

（２）本を数えるときに使う言葉が入る。

（３）――③線部のすぐあとに書いてあるように、「この言葉」
は、「へたんす」を数えるときに使う言葉なので、「さお」
を指していることがわかる。

（４）本文中の「そこで、家の中の大切なものを運ぶこと
ができるようにしたのです」という部分をよく読んで、
文字数に気をつけながらさがす。

（５）――⑤線部の前に、「ウサギの長い耳が鳥の羽のようだ
から」と、「ウサギがはねる様子が鳥ににているから」と
いう二つの理由が書かれている。